

令和8年度 着付け職種技能検定

2級着付け（着付け作業）実技試験問題

次の注意事項及び仕様に従って、訪問着又は付下げ訪問着（二重太鼓）の着付けを行いなさい。

【1】試験時間

(検定委員による試験の説明10分)	
持参品及び服装の点検のための準備 注(9)	5分
(検定委員による受検者の持参品及び服装の点検15分)	
ボディに肌着をつける	10分
補整、長襦袢着付けのための準備 注(11)	5分
補整、長襦袢着付け	10分
(検定委員による採点10分)	
着物着付け、帯結び	25分
(検定委員による採点25分)	

【2】注意事項

- (1) 受検者の服装は、着付け作業に相応しいもの（Tシャツ、ミニスカート、ショートパンツ、ジーンズ及びそれらのたぐいは禁止）であること。また、前かけ又はポシェット等の使用を禁止する。
- (2) 着物、伊達衿（又は比翼衿）及び長襦袢の衿とじは、会場入りの前に済ませてくること（衿芯は入れてきてもよい。会場で針の使用はできない。）
- (3) 受検者は、石付きの指輪、腕時計及びアクセサリ等を外すこと。
- (4) 試験中は、指定された場所で作業を行うこと。なお、面積は、受検者一名あたり約4㎡（2m×2m）とする。衣裳敷の大きさは指定してないので、必ずしも、作業スペース全体に敷く必要はない。
- (5) 試験中は、私語及び携帯電話等の使用を禁止する。
- (6) 試験中は、持参品の貸し借りを禁止する。また、試験終了後は、全ての持参品を持ち帰ること。
- (7) 試験中は、アラーム類及びメジャー類（目盛付クリップの目盛部分なども含む）の使用を禁止する。
- (8) 持参品で受検に適合しないものがあつた場合（用意なしを含む）は、原則として失格となる。
- (9) 「持参品及び服装の点検のための準備」の際には、検定委員が持参品の種類や数を確認出来るように持参品を並べること。特に、長襦袢はたたみ、背側が見えるように置き、紐付きの伊達巻は紐が見えるようにし、着物は本だたみにして、裾が上になるようにすること。ただし、帯は折らずに平ら（又は屏風だたみ）にたたむこととし、帯の形付の作業は「着物着付け、帯結び」の作業時間内に行うこと。
- (10) 受検者は、「検定委員による受検者の持参品及び服装の点検」後、ボディに肌着を着けること。
- (11) 「補整、長襦袢着付けのための準備」の時間は、検定委員が点検をした持参品を、衣装箱、又は風呂敷の上に作業しやすいように並びかえるための時間で、タオルやコットンの加工はできない。タオルやコットンをカットする等の作業は「補整、長襦袢着付け」の作業時間内に行うこと。

- (12) 試験時間内に作業が終了しても、試験会場からの退席を禁止する。
- (13) 試験時間内に仕様どおりにできていないもの及びクリップを取り忘れているものは、失格とする。
ただし、おはしより芯を使用しているもの及び帯締めが本結びでないものは、減点にとどめる。

【3】仕様

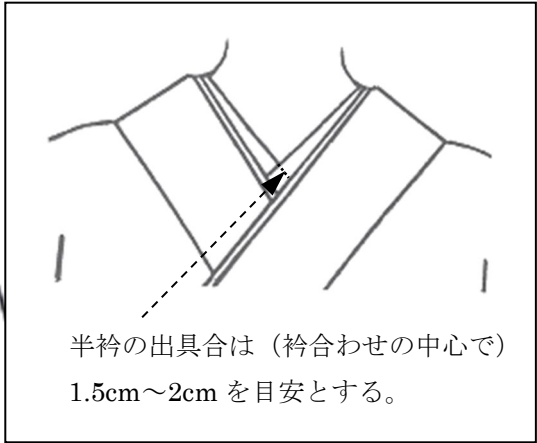
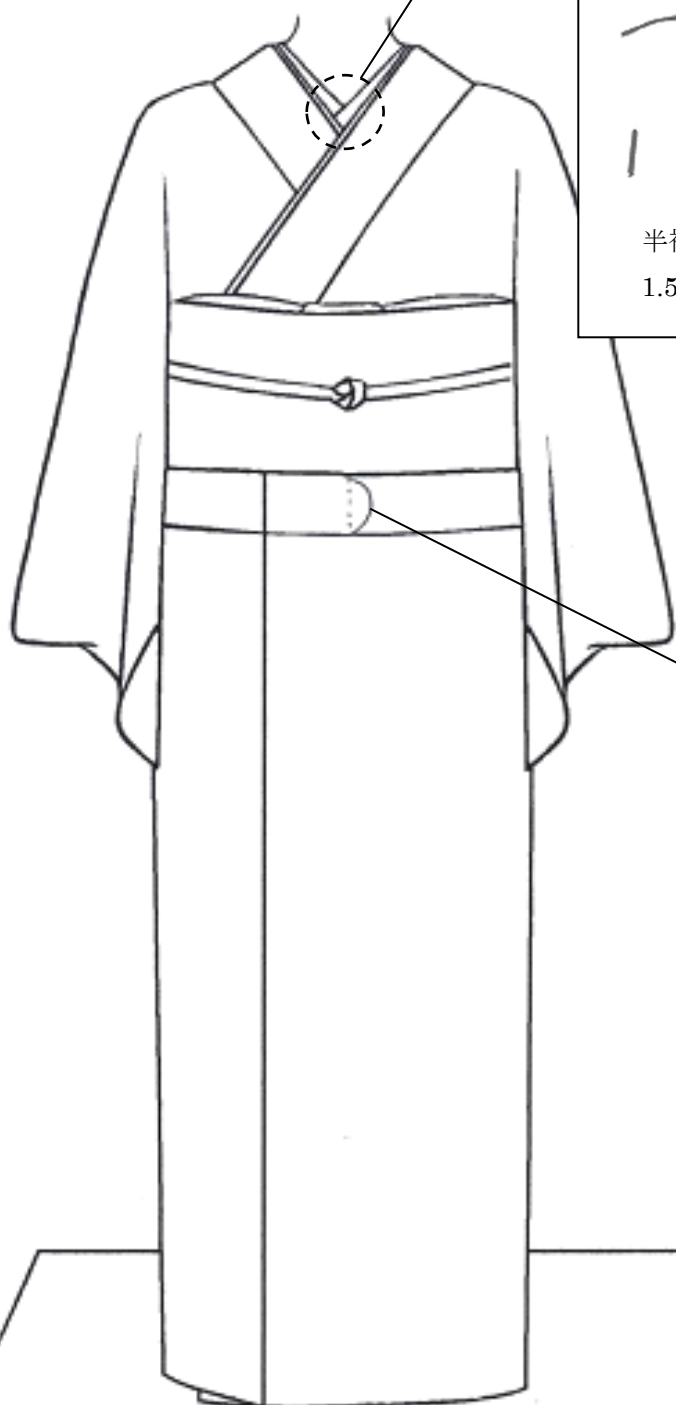
受検者持参品を使用して、ボディに訪問着又は付下げ訪問着（二重太鼓）の着付けを行う。

- ・おはしより芯を使用しない。
- ・伊達衿（又は比翼衿）を使用する。
- ・帯締めは本結びにする。
- ・帯結びは二重太鼓にする。

寸法の目安 ※P3～4 参照

- ・半衿の出具合は衿合わせの中心で 1.5cm～2cm を目安とする。
- ・おはしよりの長さは 5cm～7cm を目安とする。
- ・垂れの長さは 7cm～10cm を目安とする。

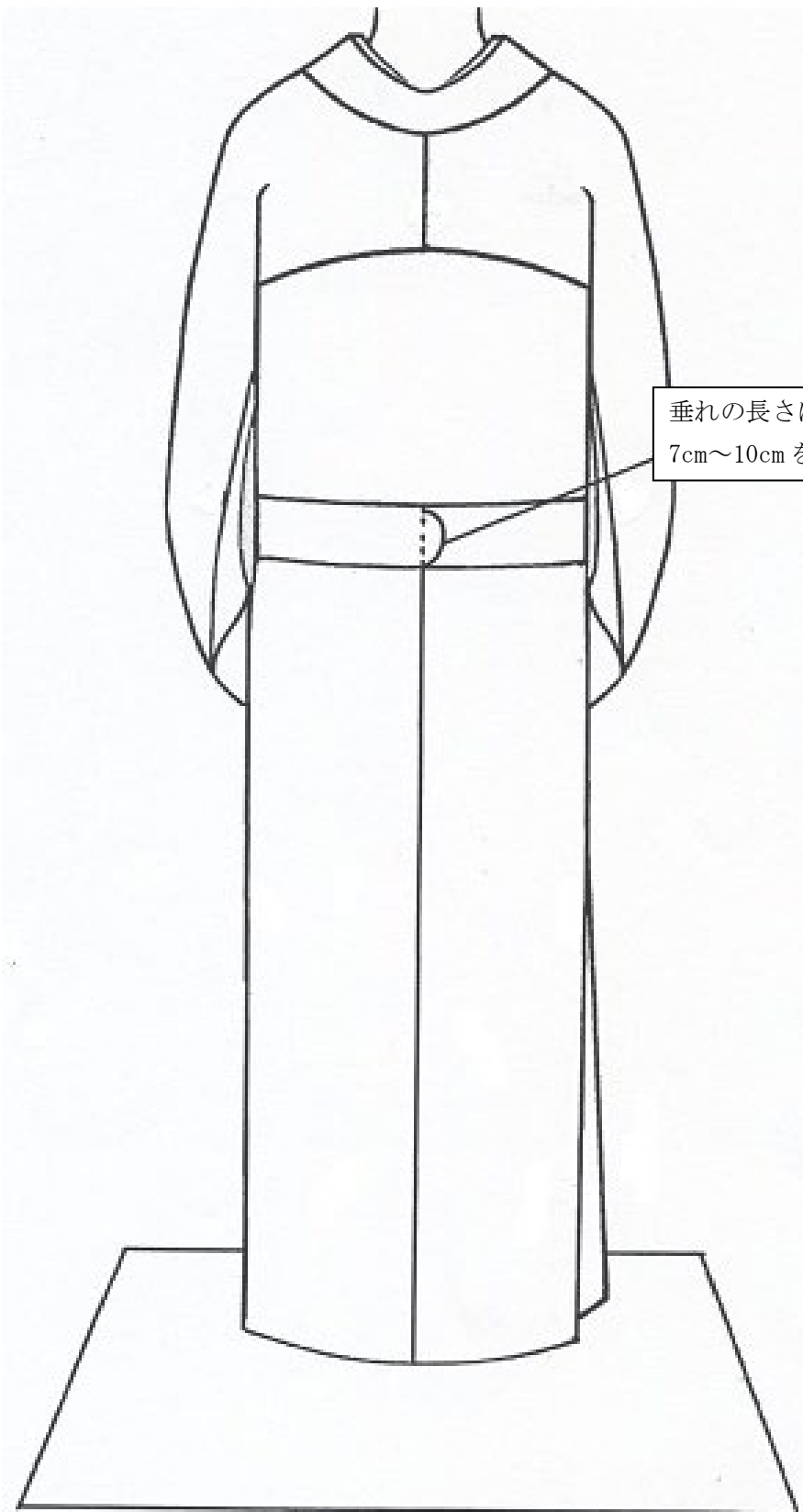
訪問着又は
付下げ訪問着（前）



半衿の出具合は（衿合わせの中心で）
1.5cm～2cmを目安とする。

おはしよりの長さは
5cm～7cmを目安とする

訪問着又は
付下げ訪問着（後）



垂れの長さは
7cm~10cm を目安とする

【4】受検者持参品

下記のもの以外は持参しないこと。

持参品で受検に適合しないものがあつた場合（用意なしを含む）は、原則として失格となります。

	名称	数	種類
モデル	ボディ	1	ボディの台から肩先まで125～130cm。 ボディは会場での貸出は行わないので、必ず持参すること。
準備品	着物	1	訪問着又は付下げ訪問着（衿） 上前の胸に柄があり、前身ごろと衿の柄がつながっているもの。 持参品の模様が上記の要件を満たさないもの、無地、小紋柄、織りは失格。
	伊達衿（又は比翼衿）	1	無地、地紋入りは可。 スパンコールや刺繍などの装飾加工をしたもの、二色使い（金糸織入り等も含む）のものは不可。 伊達衿止め具は使用不可。
	長襦袢	1	衿は、広衿、ばち衿又は棒衿。 ツーピースは失格。 衣紋抜き、紐通し付、紐付は不可。
	半衿	1	白無地の塩瀬 色半衿、刺繍入りは失格。
	衿芯	1 (持参は自由)	素材は自由。
	帯	1	袋帯 袋帯以外（丸帯など）は失格。
	帯締め	1	飾り物は不可。
	帯揚げ	1	素材は自由。 帯枕にゴムでとめることは不可。
	肌着	1	肌襦袢、裾よけ（短くてもふくらはぎが隠れる程度の長さ） ワンピースは可（前合わせができないものは不可）
	腰紐	5本以内	布製
	伊達締め又は伊達巻	2本以内	布製。 金具付又はゴム付き（シャーリング）は不可。
	帯板	1	ゴム付は不可。
	帯枕	1	ガーゼ付は可。 窓枠付は失格。 加工して持参することは不可。
	補整用タオル、 ガーゼ、コットン、 ハサミ	自由	タオルは大き過ぎないもの（目安として35cm×85cm位まで）。 タオルの端を切ったり、糸を抜くなど加工して持参することは不可。 ガーゼの長さは自由で、二つ折りにして巻いてくることは可。 市販されている状態のコットン（カット綿等）は可。 ガーゼやコットンを加工して持参することは不可。
	クリップ	4個以内 (持参は自由)	目盛付の場合は、目盛をテープ等で隠すこと。 鈴付は不可。 着付け用以外（洗濯ばさみ、文具用等）は不可。
	衣裳敷	1	紙製。 事前に2枚を貼り合わせて1枚としても可。 2枚使用することは不可。
衣裳箱（風呂敷も可）	1	衣裳箱の大きさは縦40cm～45cm、横55cm～65cm、高さ5cm～20cmを目安とする。（衣裳箱の代わりに風呂敷を使用する場合は、上記寸法を目安にたたむこと）。 風呂敷でないもの（小風呂敷・スカーフ・きものバック等）は不可。 ファスナーや取手付きの収納ケース、透明クリアケース、クリアボックス、段ボール箱等は不可。	

※上記のもの以外は持ち込まないこと。

※持参品で受検に適合しないものがあつた場合（用意なしも含む）は、原則として失格となります。